

令和5年度 校内研修計画

周南市立周陽中学校

1 昨年度の取組より

昨年度研修テーマ

自ら学び、豊かな言葉で自己表現できる生徒の育成
～基礎・基本の定着とつながりの中で学力向上を目指す～

成果	課題
●周陽授業モデルの実施 ●授業の中で、生活班による話し合い活動の実施 ●周陽自学スタンダードの実施（振り返りの充実、「しおり」の配付） ●学習委員会の活用（自学コンクール、学習クラスマッチ、自学応援し隊、学習時間の記録） ●ICTを活かした授業作りの研修 ●ユニット別の授業研修	●全学調、県確認問題による分析の共有、それを活かした対策を講じること ●「学びのカルテ」の有効活用 ●自学タイム・・・クラス・担任によって意識や取り組みませ方の差異が大きい ●真の学力向上につながる自学ノートの取組（自学に取り組む時間、自学の内容の改善） ●ICT 機器（ipad）の活用

2 令和5年度の学校教育目標

「笑顔 生き生き 自ら学ぶ」

↓↓↓

- 自ら進んで学ぼうとする生徒
- 知識や技能を活用し、考え・判断し、表現する生徒
- 学んだことを生活に生かそうとする生徒

3 今年度研究主題（案）

探求心旺盛で、発信できる生徒の育成

副題 ～生徒が主体的にICTを活用し、深い学びを目指すための工夫～

4 研究仮説

各教科で基礎的・基本的な知識を定着させ、生徒と生徒、教師、教材、地域などとの様々なつながりを意識した学びの場面を仕組むことで、自ら学びながら知識や考えを深め、豊かな言葉で自己表現できる生徒を育成することができるだろう。

5 研修内容・方法 RPDCA(Research 実態把握 Plan 計画を立てる Do 日々の教育活動

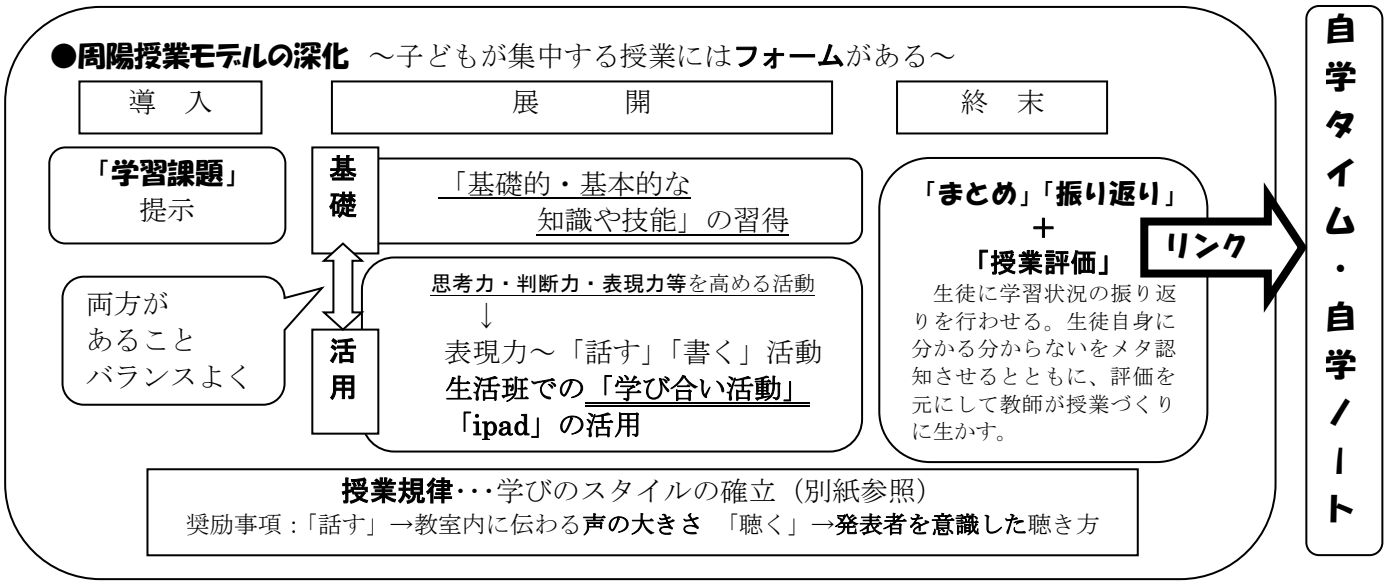
Check 2つの調査で分析・評価 Action 日々の授業で工夫改善)

RPDCAサイクルを意識して研修に取り組むことで、研究主題の達成に迫る

検証改善 サイクル	生徒	教師
R 課題の把握	「授業の振り返り」で学習状況の自己評価 分かったこと・分からなかったことの把握	「前年度の振り返り」を分析し、現在の自分の得意と苦手を確認把握
P 計画	「自学タイム」で家庭学習の計画立案	「自己目標シート」で授業力向上のための自己目標の設定
D 実行	「自学ノート」で家庭学習の充実	「日々の授業」「授業公開」で自己目標に添った実践
C 評価	「自学ノートの振り返り」で自分の達成状況をチェック	「生徒の振り返り」で授業の振り返り
A 改善	「翌日の授業、家庭学習」で学習の取り組み方を見直し、学習改善	『C評価』をもとにしながら授業改善を行い、よりよい授業実践へ

【重点取組事項1】 主体的・対話的で深い学びの場づくり

- ① 「授業」
- ・周陽授業モデルの実践→学習課題の提示・まとめ、振り返りの充実、言語活動の充実
 - ・「自学タイム」「自学ノート」へのリンクを意識した授業づくり
 - ・「振り返り」(毎時間、章末など)、「授業評価」(振り返りと兼用、全体として1，2学期末に実施)の実施
 - ・教科別に学び方ヒントを示す。



→授業公開チームにはコミスクの視点を取り入れるために、学校運営協議委員の方にも参加していただき、幅広い視点で学力の向上、心豊かな生徒の育成につなげていく。

授業公開・授業研究(年間4回)			
授業公開の時間は5校時とし、6校時にグループ内で研究協議を行う 講師による研修は別日に行う。			
アドバイザー	チームリーダー	研究教員・職員	学校運営協議委員
教頭先生	4年目以降の教員 1名	4名程度×6グループ	2～3名
支援・指導を行う	チームの研修の中心となり企画・調整まで行う	ともに授業公開・研究協議を行う	保護者・地域の目線で意見

	グループ A	グループ B	グループ C	グループ D	グループ E	グループ F
1 学期						
2 学期前半						
2 学期後半						
3 学期						

② 「自学タイム」

自学ノートの質を上げるためのしかけ～生徒が自主学習に意欲的に取り組めるようになるために～

- ・周陽自学スタンダードの再確認
- ・学習委員会の活用
- ・効果的な実施時間の検討（学年×10分＋10分・・・例、1年生80分）
- ・自学タイムの充実（下敷きの配付、6点セットの記入（特に「振り返り」）の記入）
- ・ICTの活用（ミライシードドリルパークの活用）
- ・やまぐちっ子学習プリント DASHの活用←山口県教育庁義務教育課より推奨

●学習委員会を中心とした、自発的な取組

自学ノートコンクール実施の数を増やす、月ごとの委員会発表でよい自学ノートを紹介、自学ノート週間、自学ノートミュージアム

●日々の取組

- ・学習委員が自学タイム中、チェックしてまわる。
- ・自学でできることを各教科担任からアドバイスする。
→黒板に自学のアドバイスコーナーを設ける。
→自学タイム前に呼びかける。
- ・「ノート1ページのうちの3分の1はまとめて、残りは演習する」（例を出す）

③ 「自学ノート」

- ・自学ノートの利用による家庭学習の充実（振り返りからつながる家庭学習）
- ・自学ノートの取り組み方について各教科によるアドバイスの実施（自学ノートを教科担当がチェックする日をもうける。）
- ・学習委員会の活用（自学コンクール、自学応援し隊（教科担任、その他の教員によるアドバイス））

④ 「言語活動の充実」

- ・各教科で、深い学びにつながる発問や話し合い活動の実施
- ・各教科で、課題を正確に読み取り、それに対する自分の考えを文章やグラフ、図表など様々な形で表現する活動の実施
- ・ふれあいノートの日記の記述の充実（4行しっかり書く。「テーマを設定する」「事実を2行、その感想を2行書く」「その日にあった授業について1行ずつ感想を書く」など書き方を指導する。）

⑤ 「研修の充実」

- ・「道徳」「特活」「特別支援」「部活動」「復伝」など、様々な内容を研究内容として取り上げ、幅広くかつ計画的に研修を行い、教師力の向上を目指す。
- ・やまぐち総合教育支援センターのサテライト研修や授業アドバイザーなどを活用する。

【重点取組事項2】 9年間の学びの共通理解

① 周陽中学校区 学びのスタイル

- ・学習委員会でその推進を働きかける。
- ・小中連携の打ち合わせで内容のメンテナンス。

② 周陽中学校区 学びのカルテ

- ・全学調、県確認問題の分析と兼ねる。
- ・問題、データ入力全教員で採点する。記述式の設問は各教科担任が採点し、記号や短答式の設問は、その他の教員が採点する。採点しながら、正答率の低い問題や間違いの傾向について気づいたことを、Publicに用意した表に打ち込み、学年の傾向と課題を共有する。
- ・各教科部会で、学びのカルテを作成する。
- ・結果が返された後、全国（県）平均より下回った設問、課題の見られる設問について、つまづきやその課題解決のためのこれからの取組について校内研修で話し合う。
- ・教科部会で、自校採点と実際の採点を比べ、正答が異なっていたものを洗い出し、採点基準を確認する。学びのカルテを修正する。
- ・小中連携の打ち合わせで、調査で明らかになった課題を共有する。

1 研究推進組織

校長	研究推進委員会 校長・教頭・研修主任 学校運営協議委員 その他分掌主任など	研修部会 研修主任 各学年研修担当	研修職員会議
			校内授業研究会
			授業公開・研究チーム

2 令和5年度校内研修計画について

月	日	学力向上部会	生活力向上部会	企画力向上部会
4	4	・小中連携打ち合わせ（今年度の取組の確認） ・研修計画共通理解 ・ユニット研修、自学スタンダード、小中連携について ・教科部会（役割分担、年度初めの確認）	・緊急時対応研修	・研修計画共通理解
	14	・生徒集会「学びのスタイル」、「自学スタンダード」「ふれあいノート」の書き方について説明		
	18	・全国学力・学習状況調査の実施（3年） ・やまぐち学習支援プログラム確認問題の実施（1,2年）		
	28	・市中研総会、教科部会、専門部会		
5	8	・生徒集会 学習委員会「自学の見本 掲示作り」		
	8 ～ 11	・<u>自学ノート強化週間</u> ※さまざまな先生に自学を見てもらい、レベルアップを図る週間。		
	12	中間テスト		
	16	・全国学調中学英語「話すこと」		
6	2	・生徒集会 学習委員会「学習クラスマッチ1」		
	14	研修職員会議1（講師を招いて）		
	19 20			自学サポート
	22 23	期末テスト		
7	4	・生徒集会 学習委員会「自学ノートコンクール1」 ・授業評価アンケート ・小中連携打ち合わせ（「学びのカルテ」で昨年の確認問題からの取組の振り返りと5月全学調の結果の共有、小中合同学校運営協議会の準備）		
	31	・教育課程研究協議会（会場：光附属中）		
8	3	・市中研教科部会、専門部会	・緊急時対応研修？	小中合同学校運営協議会（5）
	9	・教育課程研究協議会(AM 技術 PM 音楽)		
	23	研修職員会議2 特別支援教育研修（講師の招聘、特別支援コーディネーター）		人権教育研修会(23)
9	15	・生徒集会「学習クラスマッチについて」		
	21	学習委員会「学習クラスマッチ2」		
	29	中間テスト		

	4	研修職員会議 3（講師を招いて）		
10	18	研修職員会議 4（人権資料検討）		
	未 定	・県学力定着状況確認問題 ＊採点・分析は各教科部会で実施		
11	6	生徒集会 学習委員会「自学ノートコンクール2」		
	7 ～ 10	・ <u>自学ノート強化週間</u> ※たくさんの先生に自学を見てもらいレベルアップを図る週間。		・人権参観日・ 講演会（14） ・自学サポート
	22 24	期末テスト		
	30	・学習委員会		
12	2	生徒集会 学習委員会		
	23	・学習委員会「自学コンクール3（1，2年）」	・緊急時対応研 修	
1	15	・学習委員会「学習クラスマッチ3（1，2年）」 ※3年企画：後輩へ学習アドバイス		
	22 ～ 26	・ <u>自学ノート強化週間</u> ※たくさんの先生に自学を見てもらいレベルアップを図る週間。		自学サポート
	24	・小中連携打ち合わせ（「学びのカルテ」で4月全学調からの取組の振り返りと10月確認問題の結果の共有） 研修職員会議 5（ユニット型研修）研究授業		
2	21 22	学年末テスト		
	27	・学びのカルテの引継ぎ ・年度末反省と来年度への提案		
3	12 15	・学習委員会「1，2年自学応援し隊」		

提案事項

- ① 1学期に1回、2学期に2回、3学期に1回ユニット型研修を行う。指導案や研究協議会の記録は研修主任に提出し、全教員で共有。
- ② 学習委員会を活用して、生徒主体で学習への取組を推進する。
- ③ 生徒が主体的にipadを活用した授業の工夫については、教科部会内で随時公開していく。
- ④ 必要に応じてとびこみ研修を入れる。（ICT教育担当との連携）
- ⑤ 積極的にやまぐちっ子学習プリント DASH を活用する。